

46カ国から参加 国際シンポジウム開幕

東北大

東北大主催の「二十一世紀の研究と教育に関する国際シンポジウム」(ISR E)が十八日、仙台市青葉区の仙台国際センターなどを会場に、二十五日まで八日間の日程で始まった。初日は、科学技術の関連学会によるセミナーやワークショップなど、十五の個別シンポジウムが開かれた。

国際シンポジウムは国内でも珍しいという。二日目の十九日は午後二時から、「地球の未来を考える」と題した市民フォーラムが国際センターである。西澤潤一岩手県立大学長ら四氏が講師を務め、二十一世紀の地球環境や国際交流の在り方を展望する。二十、二十一の両日には同じく国際センターで、「大規模国際交流仙台フォーラム」が開かれる。世界二十三方国の大学や研究機関から学長、各学部長、国際交流担当者ら約八十人が参加する。

東北大は期間中の参加者を四十六カ国、約千五百人と想定。これだけ大規模な